血管肉腫

血管肉腫の8例

杉浦 啓二^{*1} 小出江理香^{*1} 陳 友一^{*1} 清水 善徳^{*1}
 松永佳世子^{*1} 上田 宏^{*1} 梅村 芳樹^{*2} 大谷 隆夫^{*3}

Summary

We have 8 cases of Angiosarcoma during the recent 10years, and 4 cases of them were sixties, the other 4 cases were seventies. Male/Female ratio was 5/3. The most common site of 8 cases was head, and the rare case was left side face. Clinical type : Macular type was 3 cases, Nodular or Ulcertype was 4 cases. Nodular or Macular type was one case. We treated 6 cases by Interleukin-2 (Il-2), and 2 cases of them are alive. The average existence period of 8 cases was 31 months, the longest existence period was 72 months, and the shortest existence period was 3 months. The average existence period of 3 cases treated by Interleukin-2 (Il-2) with electron beam were longer than 2 cases that were not treated in this combination.

Key words : Angiosarcoma, Interleukin-2 (Il-2), Electoron beam,
 Operation, CYVADIC

緒 言

Angiosarcoma は肉腫において約 1% をしめる腫瘍で、早期に転移しやすく、非常に予後不良の悪性間葉系腫瘍で、高齢者に多い疾患である。筆者らは過去 10 年間に当科を受診し病理組織学的に Angiosarcoma と診断された症例につき検討したので報告する。

方法および対象

1989 年 1 月から 1999 年 5 月までの期間に当科を受診し病理組織学的に Angiosarcoma と診断しえた 8 症例について年齢、性別、部位、臨床病型、分化度、治療、初診時からの生存期間および予後の項目に分け検討した。

結 果 (表 1, 表 2)

1. 初診時年齢：男性の平均年齢は 67.6 歳，女性の平均年齢は 68.6 歳で，60 歳代が 4 例，70 歳代が 4 例で最高年齢が 75 歳，最小年齢は 60 歳であった。

8 例すべての平均年齢は 68 歳と高齢である。

^{*1} Keiji SUGIURA, Erika KOIDE, Yuichi CHIN, Yoshinori SHIMIZU, Kayoko MATSUNAGA, Hiroshi UEDA : 藤田保健衛生大学皮膚科

^{*2} Yoshiki UMEMURA : 新城市民病院皮膚科

^{*3} Takao OHTANI : 津島市民病院皮膚科

表 1. 過去 10 年間の Angiosarcoma の 8 例

年齢	性別	部位	臨床病型	分化度	管腔形成	治療	生存期間	予後
60*	女	右鼠径部	結節、潰瘍型	分化	有	手術	不明	死亡
62	男	左頬部	斑状型	分化	有	手術、化学療法、IL-2、電子線	6年	死亡
64	男	下腿部	斑状型	分化	有	IL-2	4ヶ月	死亡
69	男	頭部	結節、潰瘍型	未分化	有	手術、IL-2、電子線	1年1ヶ月	生存
71	男	頭部	斑状型	未分化	無	手術、IL-2、電子線	2年10ヶ月	生存
71	女	右臀部	結節、潰瘍型	未分化	無	手術、化学療法	3ヶ月	死亡
72	男	頭部	結節、潰瘍型	未分化	無	IL-2、電子線	3年4ヶ月	死亡
75	女	頭部	結節、斑状型	分化	有	IL-2、電子線	3年	死亡

*Stewart-Treves症候群

表 2. 平均生存表 (単位: ヶ月)

電子線、IL-2	併用例	49.3	(n=3)
	非併用例	3.5	(n=2)
	高分化	37.3	(n=3)
	低分化	21.5	(n=2)
	結節病変無 (斑状型)	38	(n=2)
	結節病変有 (結節斑状型含む)	26.3	(n=3)

2. 性別: 男性が 5 例で女性が 3 例。

3. 部位: 頭部が 4 例と最も多く、比較的稀な症例として左頬部の症例があった。Stewart-Treves 症候群の 1 例として右鼠径部の症例も経験した。

4. 臨床病型: 結節、潰瘍型は 4 例あり、斑状型は 3 例でまた結節、斑状型は 1 例あった。

5. 分化度: 分化度の高い症例は 4 例、未分化な症例は 4 例で、また血管腔の形成については管腔形成を認めるものが 5 例、認めないものが 3 例あった。

6. 治療: Interleukin-2 (IL-2) 使用例は 6 例あり、その中で動注例は 1 例であった。Interleukin-2 (IL-2) 未使用例は Interleukin-2

(IL-2) が製品化前の症例であった。斑状型にはすべて Interleukin-2 (IL-2) を使用し、そのうち 2 例は局注例で 1 例は動注例であった。手術療法を行った症例は結節型が 3 例、斑状型が 2 例あり、電子線療法を施行した症例は 5 例でいずれも Interleukin-2 (IL-2) を併用した。化学療法を使用した症例は 2 例でいずれも CYVADIC 療法を施行した。

7. 初診時からの生存期間および予後: 不明例の 1 例を除く 5 例では平均生存期間が 31 ヶ月で、最短生存期間は 3 ヶ月、最長生存期間は 72 ヶ月であった。現在生存しているのは 2 例でいずれも手術、電子線、Interleukin-2 (IL-2) の 3 者を併用していた。電子線と Interleukin-2 (IL-2) を併用した 3 症例の平均生存期間は 49.3 ヶ月で併用していない 2 症例に比して長い傾向にあった。

8. 分化度、臨床病型別生存期間: 不明例の 1 例を除く高分化型の 3 症例の平均生存期間は 37.3 ヶ月で、低分化型の 2 症例は 21.5 ヶ月、また不明例の 1 例を除く結節を伴う臨床病型 3 症例の平均生存期間は 26.3 ヶ月、斑状型の 2 症例の平均生存期間は 38 ヶ月であった。

考 察

Angiosarcoma は血管内皮細胞に由来する間葉系の悪性腫瘍で、高齢者の頭部に多く、易出血性で肉眼的に観察できるため世間体も悪く、また早期に肺、肝臓への転移を来し、5年生存率も1%に満たない極めて予後不良な疾患である。このような疾患を10年間に8例経験したが、初診時年齢では松本ら¹⁾の報告に類似して平均年齢は60歳代で高齢者に多く、また男女別では男性よりも女性の方が高齢である点も一致していた。女性の方が高齢である点については明確な理由は証明されていないが免疫力の差ではないかと考えられる。8例では有意なことはないが男性に多い傾向があり、松本ら¹⁾増澤²⁾池田ら³⁾江良ら⁴⁾の報告でも男性に多かった。部位については諸家ら^{1)~5)}の報告と同様に頭部に多かった。臨床病型と分化度については斑状型に血管形成、リンパ球浸潤、浮腫を認め、結節潰瘍型に血管形成、リンパ球浸潤が少ないという報告⁶⁾があるが、今回の検討では臨床病型と分化度との間に有意な相関を認めず、また HOLDEN ら⁷⁾、桐生⁸⁾の報告では分化度と予後に関し相関がないと述べているが、我々の検討では平均生存期間において高分化型と斑状型に長い傾向があった。この事は症例数が少ないこともあり、さらなる症例の検討を要する点である。

血管肉腫は高齢者に多い疾患で5年率は極め

て低く、治療による副作用、侵襲の少ない効果のある治療が望まれるが、現在のところ IL-2、電子線を中心とした治療法が主流になりつつある。我々の施設でも IL-2、電子線の併用により予後の良い傾向があり、治療においては IL-2、電子線の併用を行い、症例によっては手術を考慮すべきである。今後はさらなる有効かつ副作用の少ない治療法に関し期待を寄せるところである。

文 献

- 1) 松本吉郎, 井上邦雄, 深水秀一, 他: 本邦における皮膚脈管肉腫の予後. 皮膚科の臨床, 26: 1395-1398, 1984.
- 2) 増澤幹男: インターロイキン2療法—頭部脈管肉腫に対する臨床応用と治療方針—. Skin Cancer, 10: 87-91, 1995.
- 3) 池田重雄, 井上靖: 皮膚血管肉腫に対する IL-2 を組み込んだ集学的治療—イムネース研究会3年間のまとめ—. Skin Cancer, 10: 415-419, 1995.
- 4) 江良幸三, 宮國均, 中房淳司, 他: 老人頭皮の脈管肉腫の診断と治療. Skin Cancer, 8: 224-233, 1993.
- 5) 中紀文, 富田裕彦, 内田淳正, 他: 血管肉腫の予後因子. 日本整形外科学会誌, 69: 1166, 1995.
- 6) 増澤幹男, 西山茂夫, 勝岡憲生: 頭部血管肉腫. 北里医学, 26: 333-339, 1996.
- 7) Holden, C.A., et al.: Angiosarcoma of the face and scalp, prognosis and treatment. Cancer, 59: 1046-1057, 1987.
- 8) 桐生美磨: 皮膚血管肉腫の臨床病理学的, 電顕的ならびに免疫学的研究. 日皮会誌, 95: 117-134, 1985.